メタノール機関「LA28M」が完成

■ 阪神内燃機工業、舶用低速４サイクル機関では世界初

阪神内燃機工業がこのほど、世界初となるメタノール燃料焚き低速４サイクルエンジン「LA28M」を完成させた。これを記念し21日、関係者らを招き同社播磨工場（兵庫県加古郡播磨町）内の播磨高度研究棟で記念式典を開いた。同エンジンは商船三井ら６社が開発を進めている国内初のメタノール燃料内航タンカーに搭載される。

「LA28M」は、定格出力1103kW、定格回転数330min-1。メタノールを主燃料、Ａ重油をパイロット燃料とした直接噴射式のメタノール専焼ディーゼルエンジンで、専焼エンジンではあるものの、メタノール供給遮断時でもパイロット燃料（Ａ重油）のみで船級が求める速力で航行可能であり、冗長性を確保している。

商船三井、商船三井内航、田渕海運、新居浜海運、村上秀造船、阪神内燃機工業の６社は、国内初のメタノール燃料内航タンカーとなる約570総トン型のケミカル船の建造を進めており、阪神内燃機工業が開発した「LA28M」は、同ケミカル船に搭載される。同船は村上秀造船グループのカナサシ重工が建造し、今年12月に竣工予定。

参加者による記念撮影

式典では阪神内燃機工業の木下和彦社長があいさつに立ち、「このプロジェクトは、商船三井、商船三井内航をはじめとする、海運と造船各社の協力・理解のもとでなし得たもの」と強調し、「弊社が技術の粋を集結させたメタノール燃料エンジン『LA28M』を、ゆっくり見学いただければ」と語った。

田渕海運の田渕訓生社長、新居浜海運の内藤恭裕社長、商船三井内航の小林洋社長に花束が贈られた後、来賓により始動ボタンが押されエンジンの陸上運転が始まり、参加者は拍手で祝った。引き続き、昨年12月に竣工した播磨高度研究棟の説明なども行われた。

あいさつに立つ阪神内燃機工業の木下和彦社長